



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社

決算説明会資料

2023年12月期（第16期）第1四半期

東証 グロース：4579

ご注意：本資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行われる際には投資家ご自身で判断していただくようお願いいたします。また、本資料内の免責事項を必ずご参照ください。



- ◆ 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- ◆ それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。リスクや不確実性は、特に製品(研究開発プログラムおよび化合物)に関連した見通し情報に存在します。製品のリスク、不確実性には、技術的進歩、特許の競合他社による獲得、臨床試験の完了、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念、規制当局からの承認取得、国内外の医療保険制度改革、医療費抑制への傾向、国内外の事業に影響を与える政府の法規制、新製品開発に付随する課題等が含まれますが、これらに限定されるものではありません。



1. ビジネスハイライト

2. 第1四半期業績

業績概要・事業収益・研究開発費・貸借対照表・キャッシュフロー

3. 今期の見通し

4. 事業計画

収益計画・投資戦略・資金の状況と配分

5. 上市製品の状況

テゴプラザン・ペット用医薬品

7. パイプラインの状況

開発パイプライン・創薬研究・テムリック



RaQualia
innovators for life

ビジネスハイライト



連結経営成績

事業収益370百万円。対通期進捗率13.2%

- 自己資本比率：89.5%（前期末比1.8ポイント増）
- キャッシュフロー：現金および現金同等物残高 4,282百万円（前期末比603百万円増）

上市品の状況

テゴプラザンの市場は順調に拡大

- 韓国、中国、フィリピンおよびモンゴルの4カ国で販売中
- 韓国：累計売上高（処方実績） 357億ウォン（約35億円、前年同期比15.2%増）
- 中国：販売中。国家医療保険償還医薬品リストに掲載され、3月から保険償還
- シンガポール・メキシコ：サブライセンス先が販売承認を取得

ペット用医薬品の売上也堅調

- GALLIPRANT®/ENTYCE®/ELURA®：前年に引き続き堅調に推移

導出

動物薬に関するオプションおよびライセンス契約を新たに締結

- 5-HT₄作動薬（RQ-00000010）に関する契約をVetbiolix SASと締結（※2023年4月公表）

パイプライン 進捗

ライセンス先/サブライセンス先での進展

- カンナビノイドCB2受容体作動薬についてサブライセンス先のOxford Cannabinoid Technologies Holdings plc が英国当局に第 I 相臨床試験に係る治験申請を実施

自社の研究開発の進展

- 湘南ヘルスイノベーションパークに新たな研究拠点を設置
- 構造生物学に関する協業を leadXpro AGと開始（※2023年4月公表）

子会社 (テムリック)

タミバロテン

- ライセンス先のSyros Pharmaceuticals Inc.が高リスク骨髄異形成症候群を対象としたファストトラック指定を米国FDAから取得



RaQualia
innovators for life

第 1 四半期業績



事業収益370百万円（前年同四半期比9.2%増）

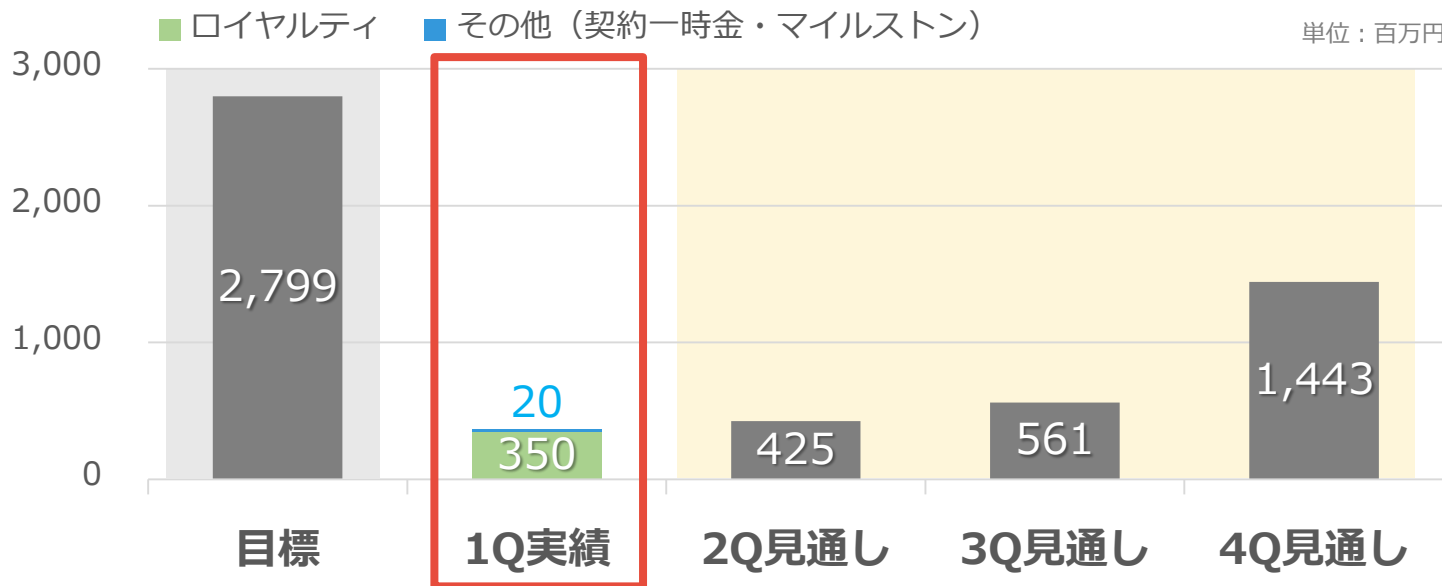
	2023年12月期第1四半期	2022年12月期第1四半期 (前年同四半期)
事業収益	370 百万円	339 百万円
営業利益	△108 百万円	△119 百万円
経常利益	△110 百万円	△70 百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△148 百万円	△120 百万円
EBITDA ¹⁾	△88 百万円	△77 百万円

1) EBITDA: 利払・税引・減価償却前利益。国ごとに異なる税率・金利の影響を減らし、中長期的視点で企業の収益力を表す指標として用いられます。



通期計画 2,799百万円に対し、370百万円を計上

- **ロイヤルティ**：テゴプラザンおよび動物薬の販売ロイヤルティで350百万円を計上
- **その他**：マイルストーン達成に伴う一時金などで20百万円を計上



達成率

13%

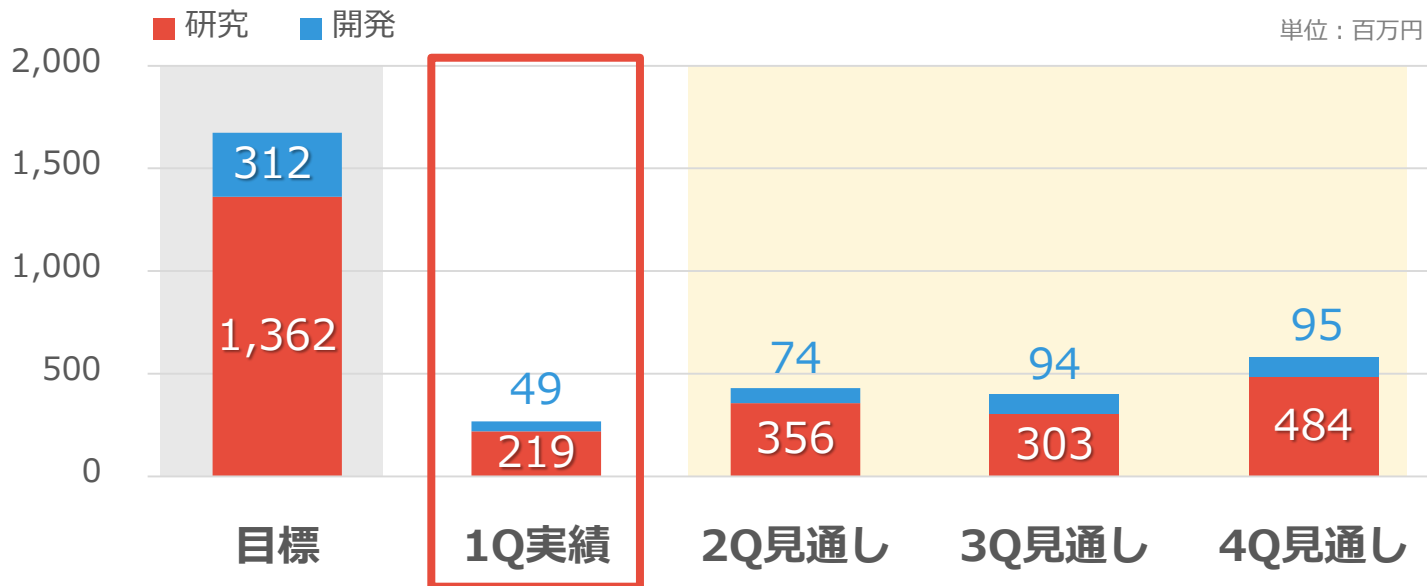
実績	1Q	テゴプラザンおよび動物薬の販売ロイヤルティで350百万円を計上 マイルストーン達成に伴う一時金などでその他収益20百万円を計上
	2Q	販売ロイヤルティおよびその他収入をあわせて425百万円を見込む
見通し	3Q	販売ロイヤルティおよびその他収入をあわせて561百万円を見込む
	4Q	販売ロイヤルティおよびその他収入をあわせて1,443百万円を見込む

※今後の見通しについては収入区分の別を設けずまとめて表示しています。



通期計画 1,674百万円に対し、268百万円を計上

- 探索研究を軸に268百万円を計上
- 開発ではグレリンの前臨床試験および臨床試験準備に向けた取り組みが進行中



実績	1Q	探索研究を軸に268百万円を計上 グレリンの前臨床試験および臨床試験用原薬製造に向けた取り組みが進行中
	2Q	探索研究活動に前臨床開発および臨床試験の準備費用を加えた430百万円を使用する見込み
見通し	3Q	探索研究活動に前臨床開発および臨床試験の準備費用を加えた397百万円を使用する見込み
	4Q	探索研究活動に前臨床開発および臨床試験の準備費用を加えた579百万円を使用する見込み

※本資料では開発候補化合物の前臨床試験以降を「開発」としています。研究開発費は研究開発部門の人件費等を含みます。

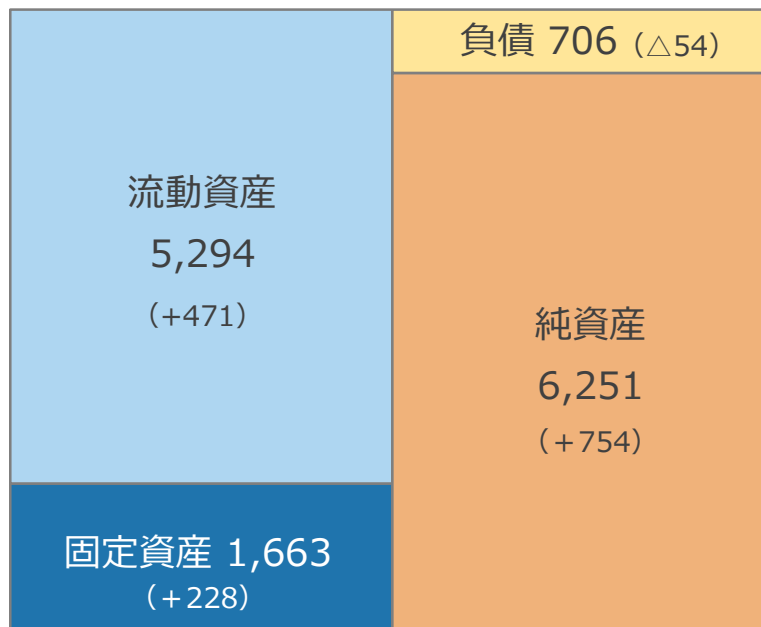


自己資本比率89.5%（前期末比1.8ポイント増）

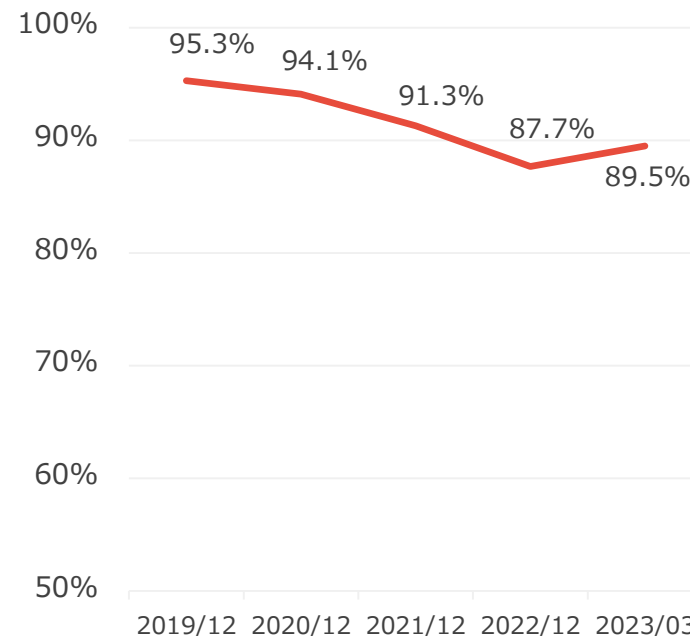
- 資産：現預金・投資有価証券の増加、売掛金・契約資産の減少などにより、前期末比699百万円増加（11.2%増）
- 負債：買掛金・未払法人税等の減少、長期借入金の増加などにより、前期末比54百万円減少（7.1%減）
- 純資産：資本金・資本準備金の増加、四半期純損失の計上などにより、前期末比754百万円増（13.7%増）

連結貸借対照表（対前期末比較）

単位：百万円



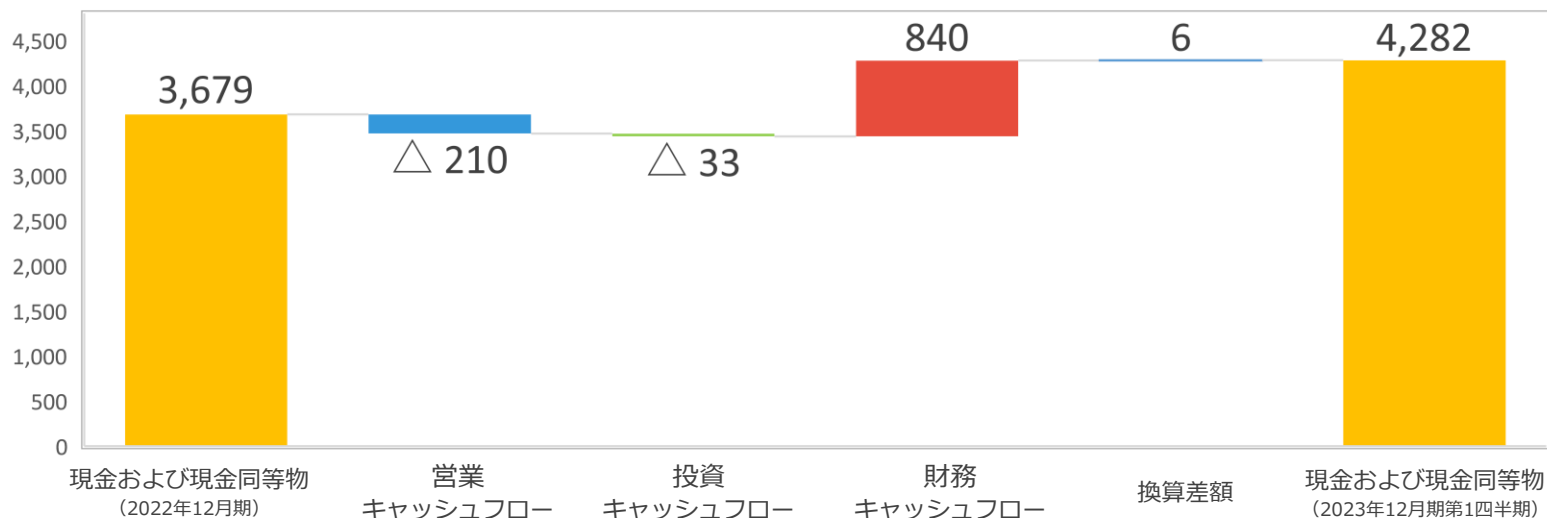
自己資本比率





現金および現金同等物は前期末比603百万円増加（16.4%増）

単位：百万円



営業

キャッシュフロー

主な増加要因：売上債権の減少209百万円
 主な減少要因：税金等調整前四半期純損失110百万円、未払金の減少101百万円、仕入債務の減少66百万円、法人税等の支払額49百万円

投資

キャッシュフロー

主な増加要因：なし
 主な減少要因：有形固定資産の取得26百万円、無形固定資産の取得6百万円

財務

キャッシュフロー

主な増加要因：株式の発行782百万円、新株予約権の発行19百万円、長期借入50百万円
 主な減少要因：リース債務の返済10百万円



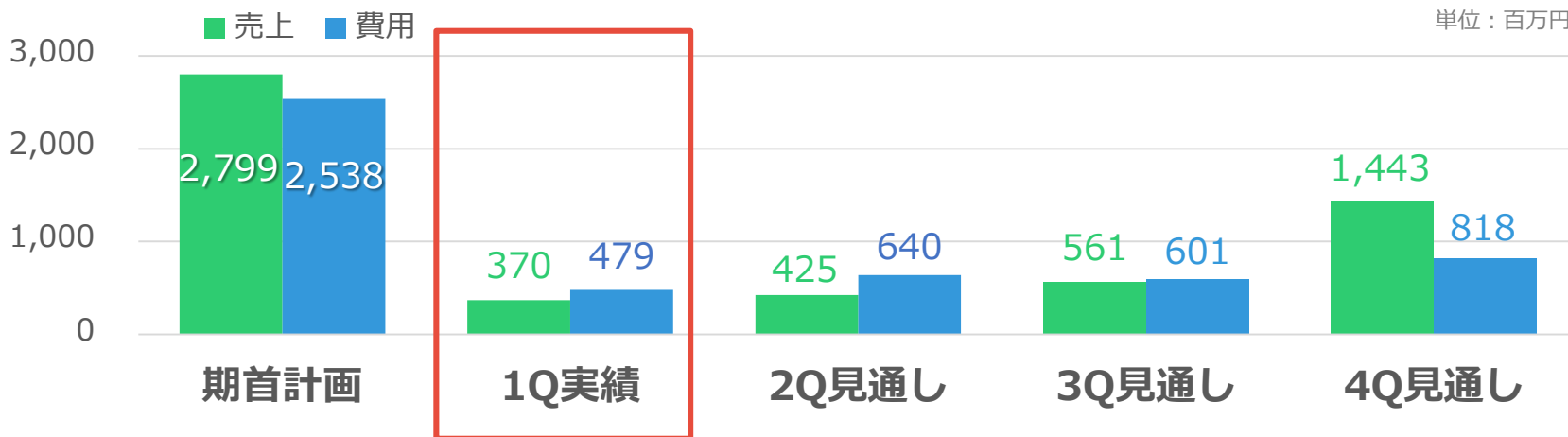
RaQualia
innovators for life

今期の見通し



● 2月発表の今期連結業績見通しに変更なし

事業収益2,799百万円、事業費用2,538百万円、営業利益 260百万円



売上

- 1Qは、販売ロイヤルティを軸に370百万円を計上
- 2Qは、販売ロイヤルティとマイルストーン・一時金等を軸に425百万円を見込む
- 3Qは、販売ロイヤルティとマイルストーン・一時金等を軸に561百万円を見込む
- 4Qは、販売ロイヤルティとマイルストーン・一時金等を軸に1,443百万円を見込む

以上の結果、通期で2,799百万円を見込む

費用

- 1Qは、事業原価 59百万円、研究開発費用 268百万円、その他販売費一般管理費 152百万円を計上
- 2Qは、事業原価 58百万円、研究開発費用 430百万円、その他販売費一般管理費 152百万円を見込む
- 3Qは、事業原価 58百万円、研究開発費用 397百万円、その他販売費一般管理費 146百万円を見込む
- 4Qは、事業原価 58百万円、研究開発費用 579百万円、その他販売費一般管理費 181百万円を見込む

以上の結果、通期で2,538百万円を見込む



RaQualia
innovators for life

事業計画

収益計画・投資戦略・資金の状況と配分



業績予想および今後の業績目標

安定的な事業収益により**3期連続の営業黒字**を確保

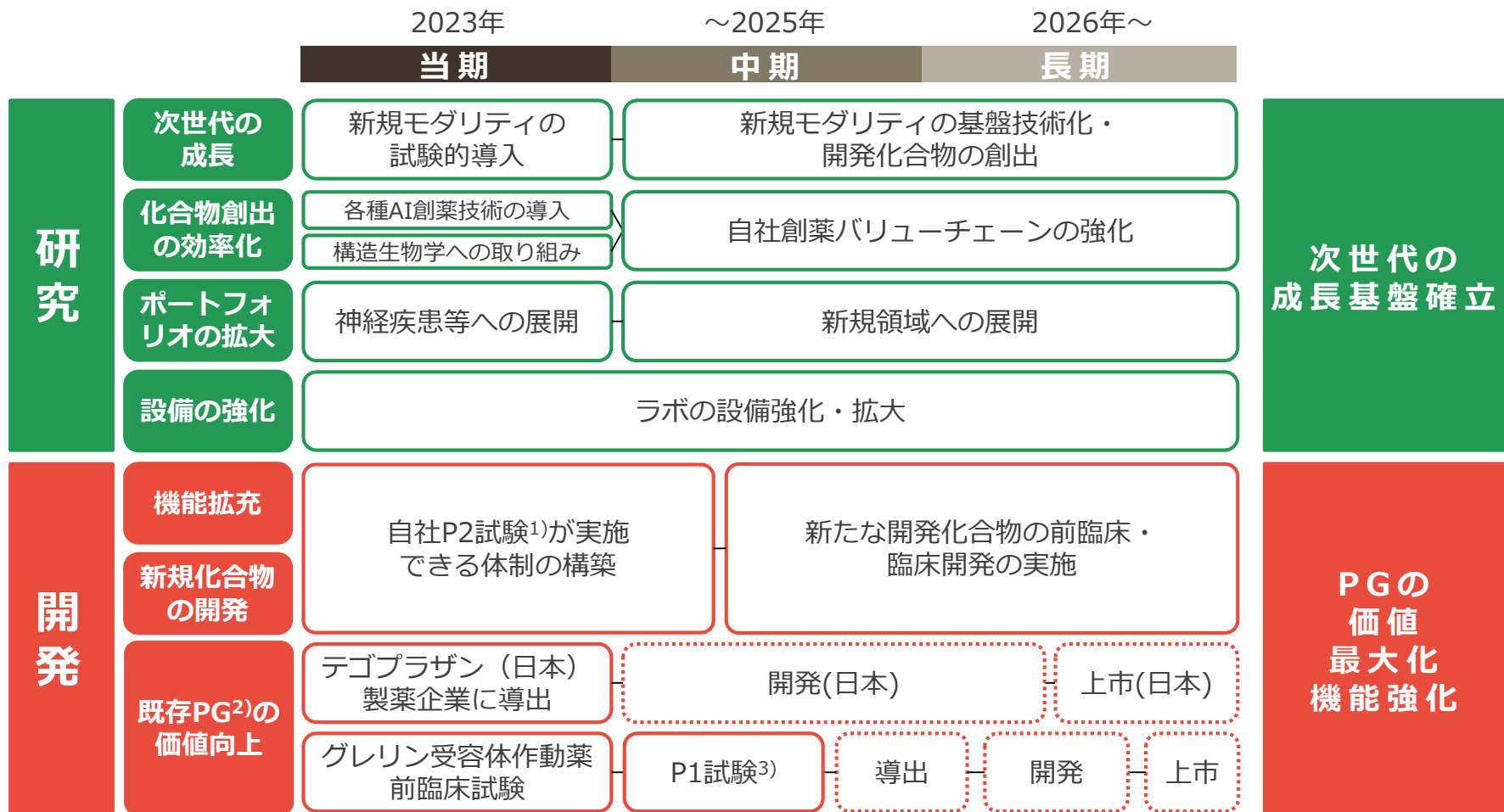
設備投資や開発費の増加により**事業費用は増加**するが、2025年以降の中長期的な成長の基盤として重要な投資と位置づけ

単位：百万円

	実績	計画	目標	
	2022年 12月期	2023年 12月期	2024年 12月期	2025年 12月期
事業収益	2,918	2,799	2,966	4,185
事業費用	2,051	2,538	2,657	2,860
営業利益	866	260	309	1,325
経常利益	904	242	317	1,330
親会社株主に 帰属する 当期純利益	723	183	248	1,166
EBITDA	1,013	464	584	1,582
為替 (米ドル/日本円)	134.25	125	125	125



中長期の投資戦略の概要



1) P2試験：第II相臨床試験（フェーズ2試験）；2) PG：プログラム；3) P1試験：第I相臨床試験（フェーズ1試験）

実線：自社 点線：導出先



企業価値最大化を最優先し長期的に株主還元を実現する

資金の状況

2023年～2025年の
事業収益見通し

99 億円

借入余力
(コミットメントライン)

10 億円

手元資金
(2023年第1四半期末)

56 億円

エクイティ調達
(普通株式)

確保済

エクイティ調達
(新株予約権：計画)

20 億円

企業価値最大化に向けた投資

資金の配分

探索研究投資¹⁾
(既存領域の拡充)

43 億円 (3カ年)

前臨床・臨床開発投資¹⁾
(プロジェクトの価値向上)

11 億円 (3カ年)

設備投資
(既存設備の拡充・DX投資等)

戦略投資
(創薬技術の獲得等
(M&Aを含む))

株主還元

株主配当金

財務基盤強化に
応じて実施予定

自己株式の取得
機動的に検討

1) 2023年～2025年の3カ年の計画であり人件費を含む額となっております。



RaQualia
innovators for life

上市製品の状況

テゴプラザン・ペット用医薬品



	プログラム名	販売名	適応症	販売元
ヒト用 医薬品	カリウムイオン競合型アシッドブロッカー (P-CAB)	一般名：テゴプラザン ・ K-CAB®(韓国) ・ 泰欣赞® (タイシンザン、中国)	・ 胃食道逆流症、胃潰瘍、十二指腸潰瘍ほか	・ HK inno.N Corporation(韓国) ・ Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co.,Ltd. (中国)ほか
	EP4拮抗薬	一般名：グラピプラント ・ GALLIPRANT®	・ 犬の骨関節炎	・ Elanco Animal Health Inc. (日米欧ほか)
ペット用 医薬品		一般名：カプロモレリン ・ ENTYCE®	・ 犬の食欲不振	・ Elanco Animal Health Inc. (米国)
	グレリン受容体作動薬	一般名：カプロモレリン ・ ELURA®	・ 慢性腎疾患の猫の体重減少管理 ・ 猫の食欲不振	・ Elanco Animal Health Inc. (米国)



胃酸分泌抑制剤テゴプラザン

カリウムイオン競合型アシッドブロッカー（P-CAB）



一般名	tegoprazan（テゴプラザン）
適応症	胃食道逆流症、消化性潰瘍ほか
販売元	HK inno.N Corporation（韓国）（HKイノエン社） Shandong Luoxin Pharmaceutical Group Stock Co., Ltd. （中国）（Luoxin社）ほか
製品名	K-CAB®（韓国・フィリピン）、泰欣赞®（中国）ほか



胃酸の過剰分泌による疾患は数多い

びらん性胃食道逆流症（EE）、非びらん性胃食道逆流症（NERD）、胃潰瘍など



世界の消化性潰瘍剤の市場は2兆円

中国 4,100億円、米国 3,700億円、日本 2,500億円



既存薬（プロトンポンプ阻害剤（PPI））の課題を克服

速やかな効果の立ち上がり、効果の持続性、強力な胃酸分泌抑制能、低い薬物相互作用



日本を除く地域の権利をHKイノエン社に許諾

当社は開発の進捗に応じたマイルストーン/製品売上に応じたロイヤルティを受け取る



韓国・中国・フィリピン・モンゴルで販売中

このほか30を超える国で発売準備・承認審査・臨床開発が進行中

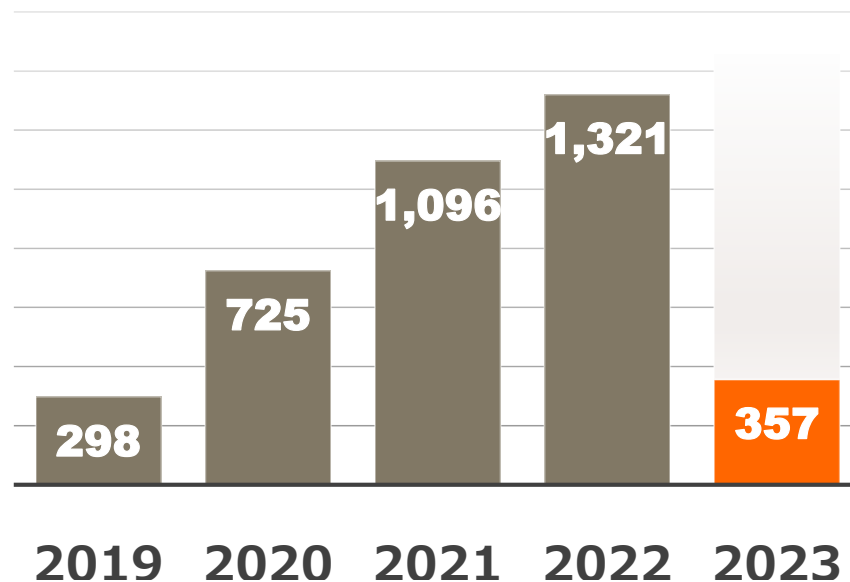


口腔内崩壊錠の伸長などにより二桁成長を維持

- 当第1四半期の韓国国内売上高※1 357億ウォン（約35億円）
- 口腔内崩壊錠（OD錠）が順調にシェアを拡大
- 2023年1月には新たに低用量製剤（25 mg錠）を発売

「K-CAB®」の韓国売上高の推移

（単位：億ウォン）



1. 前年同期比 **+15.2%**

2. 市場シェア **第1位**（シェア12%）

3. OD錠売上割合 **14%**

※1：処方実績（暫定値）
換算レート：1韓国ウォン=0.10円



(中国)

びらん性胃食道逆流症治療薬として販売中 2023年3月からの保険償還が決定

- サブライセンス先のLuoxin社（中国）が製造販売
- 2022年4月 革新的な医薬品を表す「分類1」での承認を取得
- 2023年1月19日 国家医療保険償還医薬品リスト（NRDL）収載が決定
- 十二指腸潰瘍とヘリコバクター・ピロリ感染症除菌療法の第Ⅲ相臨床試験が現在進行中



当第1四半期決算に2022年下期のロイヤルティを反映

2022年の販売数量は当社想定範囲内

- 販売初年度かつ保険償還前であることから保守的な想定
- 2022年の中国医薬品製造業はマイナス成長

**保険償還対象となったことで
処方数増による今後の売上拡大に期待**



(中国)

市場規模の拡大はさらに続くとみられ P-CABによる市場シェア獲得期待も大きい



消化器系疾患の有病率が高い¹⁾

- 2週間有病率・慢性疾患有病率とも上位5位以内（2018年）
- 胃食道逆流症12.5%、ヘリコバクター・ピロリ感染 46.7%



胃酸分泌抑制剤市場は拡大中

- 4,000億円超の市場（世界第1位、2021年）
- ライフスタイルの変化と高齢化の進行により今後も拡大見込み



胃酸分泌抑制剤の主流は未だPPI²⁾

- 第1位 ilaprazole（489億円）、第2位 esomeprazole（371億円）
- 日本および韓国ではP-CABが売上第1位となっている

1) Luoxin社年次報告書概要（発表番号：2023-026）

2) HKイノエン社IR資料（2023年4月）

換算レート：1韓国ウォン=0.10円



36か国に進出。今後2年間で販売地域がさらに増加する見通し

表. 主要な国・地域における販売・開発状況および消化性潰瘍治療薬の市場規模

(2023年5月1日現在)

国・地域	導出先 ¹⁾	販売・開発状況	進捗(2022~)	市場規模 ²⁾
韓国	HKイノエン社	販売中 (2019-)	販売伸長	1,000億円
中国	Luoxin社	経口剤：販売中 (2022.5-) 注射剤：開発中	新発売	4,100億円
フィリピン	MPPI社	販売中 (2022.11-)	新発売	80億円
モンゴル	Monos社	販売中 (2022.10-)	新発売	—
インドネシア	Kalbe社	発売準備中	承認取得	200億円
シンガポール	UITC社	発売準備中	承認取得	16億円
タイ、ベトナム、マレーシア	Pond's社、Lyhn farma社、Pharmaniaga社	承認審査中		270億円
メキシコなど 中南米17カ国	Carnot社	メキシコで承認 (2023.2) その他16カ国では承認審査中	承認取得	570億円
インドなど7か国	Dr. Reddy社	申請準備中/開発準備中	契約締結	1,300億円
米国	Braintree社	フェーズ3試験実施中 (2022-)	後期臨床	3,700億円
ブラジル	Eurofarma社	申請準備中	契約締結	800億円

1) HKイノエン社からのサブライセンス先を含む；2) 2021年末時点（出所：HKイノエン社IR資料（2023年4月））

※換算レート：1韓国ウォン=0.10円



EP4拮抗薬 GALLIPRANT®



一般名	grapiprant (グラピプラント)
適応症	犬の骨関節炎
販売元	Elanco Animal Health, Inc. (米国) (エランコ社)

- 日米欧ほかで販売中
- エランコ社史上10個目のブロックバスターに成長¹⁾

グレリン受容体作動薬 ENTYCE®/ELURA®



一般名	capromorelin (カプロモレリン)
適応症	犬の食欲不振 (ENTYCE®) 慢性腎疾患の猫の体重減少管理、猫の食欲不振 (ELURA®)
販売元	エランコ社

- ENTYCE® : 米国で販売中。売上は堅調に推移
- ELURA® : 米国で販売中。欧州で承認審査中

**ペット用医薬品には薬価制度が無く、
飼い主の評価の高い製品は売上が安定する傾向**

1) エランコ社 2021年度決算発表 (2022年2月24日)



RaQualia
innovators for life

パイプラインの状況

開発パイプライン・創薬研究・テムリック



(2023年5月1日現在)

開発段階非開示

特定のイオンチャネル
消化器領域

EAファーマ社

選択的ナトリウムチャネル遮断薬
鎮痛・鎮痒

マルホ社

導出済み

EP4拮抗薬
変形性関節症ほか
AskAt社

治験申請
CB2作動薬
IBSに伴う疼痛
AskAt社

TRPM8遮断薬
慢性疼痛
Xgene Pharmaceutical社

ナトリウムチャネル遮断薬
慢性疼痛
久光製薬社

COX2阻害薬
疼痛（動物薬）
AskAt社

新規契約
5-HT₄作動薬
消化管運動障害（動物薬）
Vetbiolix社

EP4拮抗薬
がん（がん免疫）
AskAt社

5-HT₄部分作動薬
アルツハイマー病
AskAt社

EP4拮抗薬
疼痛
AskAt社

COX2阻害薬
疼痛
AskAt社

タミバロテン
急性骨髄性白血病
Syros Pharmaceuticals社

P2X7受容体拮抗薬
慢性疼痛
旭化成ファーマ社/リリー社

タミバロテン
骨髄異形成症候群
Syros Pharmaceuticals社

テゴプラザン (K-CAB®)
胃食道逆流症ほか
HKイノエン社

EP4拮抗薬 (GALLIPRANT®)
イヌの骨関節炎
エランコ社

グレリン受容体作動薬 (ENTYCE®)
イヌの食欲不振
エランコ社

グレリン受容体作動薬 (ELURA®)
ネコの慢性腎臓病の体重減少管理
エランコ社

前臨床

フェーズ1
(第I相/P1)

フェーズ2
(第II相/P2)

フェーズ3
(第III相/P3)

販売中

導出準備

モチリン受容体作動薬
胃不全麻痺ほか

グレリン受容体作動薬
悪液質に伴う食欲不振、
脊髄損傷に伴う便秘

TRPM8遮断薬 (日本)
慢性疼痛

テゴプラザン (日本)
胃食道逆流症ほか

5-HT₄作動薬
胃不全麻痺ほか

5-HT_{2B}拮抗薬
下痢型IBS

注1) 前臨床段階以降にあるプログラムについて標的疾患ごとにわけて表示しています。

注2) 国・地域によって開発段階に差がある場合は、最も進んだ段階を表示しています。

詳細につきましては当社ウェブサイト (<https://www.raqualia.co.jp/>) の「開発情報」にてご確認ください。

5-HT₄作動薬（RQ-00000010（RQ-10））に関するオプション およびライセンス契約を Vetbiolix SAS（Vetbiolix社）と締結

- 全世界を対象とした独占的ライセンスに関する独占的オプションを付与
- オプション期間（24か月）においてVetbiolix社が研究活動を実施
- オプションが行使された後、当社はオプション料、開発マイルストーンおよび販売ロイヤルティを受け取る権利を得る

Vetbiolix社について

VETBIOLIX
NEW ROUTE TO ANIMAL HEALTH

本社	フランス・ロス（Loos）
代表者	Matthieu Roquette
設立年	2018年
事業内容	動物用医薬品の研究開発
ウェブサイト	https://www.vetbiolix.com/

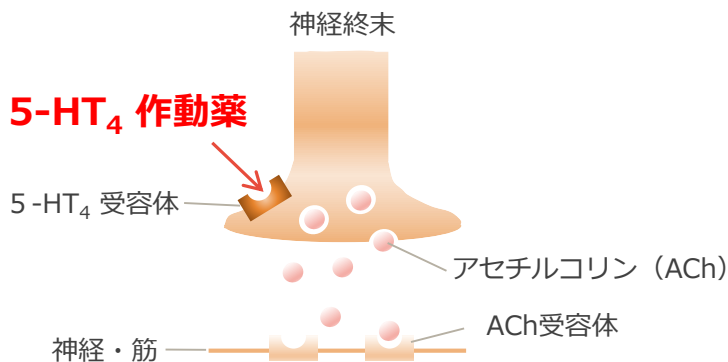
- 欧州の有カインキュベータ Eurasanté Bio-Incubatorの支援のもとで活発に事業展開するフランスのスタートアップ企業
- ヒト用医薬品の研究開発成果の動物薬への転用を目指す



- 神経伝達物質であるセロトニンの生体内での機能を模した低分子化合物
- セロトニンは5-HT₄受容体を介して胃および腸の運動を調節
 - 便秘や腹痛などを伴う消化管運動障害の治療薬として期待される

5-HT₄ 作動薬の作用メカニズム

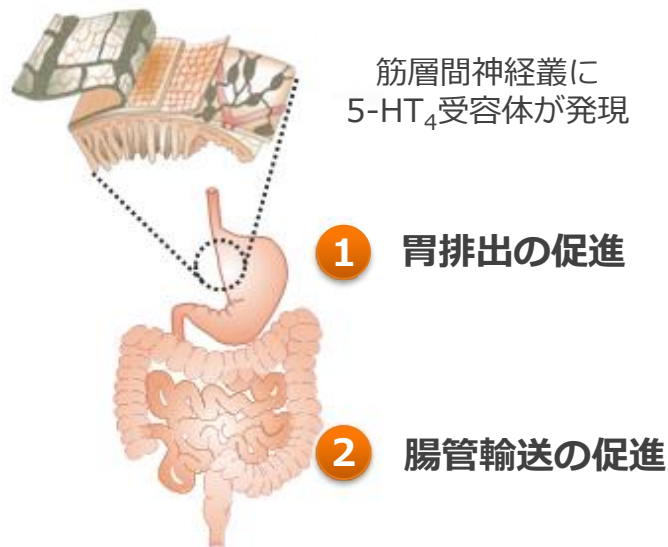
1. アセチルコリン放出を刺激



平滑筋収縮 ↑

消化管運動 ↑

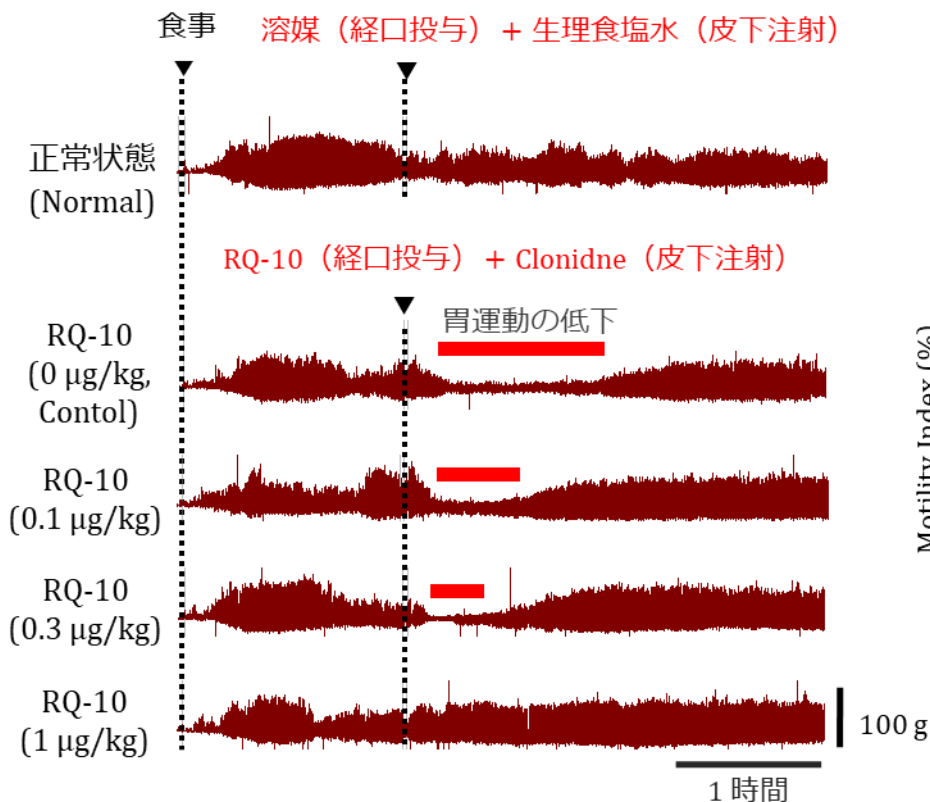
2. 胃と腸管の双方で機能





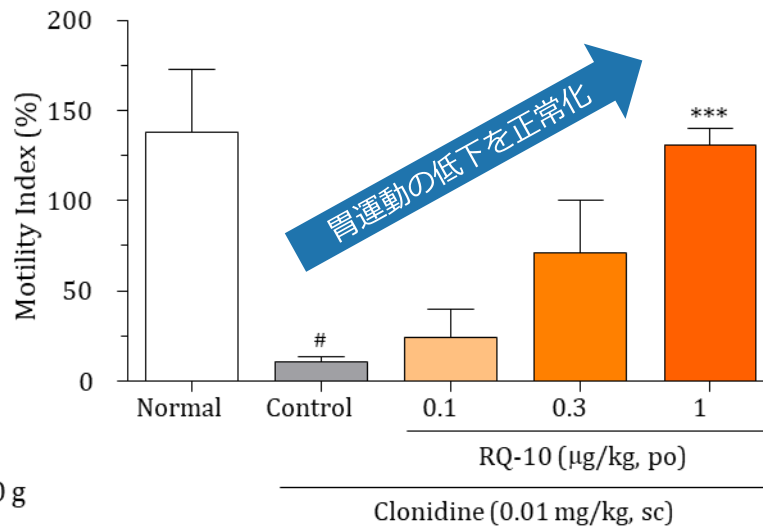
- 高活性かつ高選択的で経口投与可能な5-HT₄作動薬
- 既存の5-HT₄作動薬が持つ心血管系の副作用克服を目指して創製
- 各種の動物モデルにおいて強力な消化管運動促進効果を示した
- 第I相臨床試験実施済み

試験例：イヌ Clonidine誘発胃不全麻痺モデルにおけるRQ-10の効果



RQ-10は Clonidineによって引き起こされる胃運動の低下を **1 µg/kg^{※1}** という低い用量で正常化

※1 体重1キログラムあたり百万分の1グラム





「基盤強化」 × 「新規の取り組み」 で非連続な成長を目指す

疾患領域

- **イオンチャネル**
「疼痛・消化器」から
「神経変性疾患」への拡大
- **遺伝病・希少疾患**
標的分子探索・疾患モデル
でアカデミアと連携

モダリティ

- **低分子**
核酸標的低分子への展開
- **新規モダリティ**
戦略的提携による高分子、
中分子、複合体への展開

バリューチェーン

- **既存の技術・設備**
探索～臨床開発まで
リソースの拡充
- **次世代技術**
標的分子探索やDR※でのAIおよび
インフォマティクスの活用
構造生物学的アプローチに関する
社外との連携

※DR: Drug Repositioning: 既存のくすり（承認薬）や開発中のくすりを転用して、あらたな疾患の治療薬として開発する方法



ソシウム
株式会社

AIの活用により当社化合物の難病・希少疾患への適応を探る (2022年開始)

保有技術 独自の難病・希少疾患データベースとAI創薬プラットフォーム



STAND
THERAPEUTICS
STAND
Therapeutics
株式会社

新規モダリティ（細胞内抗体）でイオンチャネルを制御 (2022年開始)

保有技術 独自技術（STAND技術）で細胞内で抗体を作成し標的分子にアプローチ



株式会社
Veritas In Silico

mRNA標的の低分子化合物で新たな抗がん剤を目指す (2022年開始)

保有技術 mRNA上で標的部分構造を見出すインフォマティクス技術



株式会社
デ・ウイスタン・
セビテクス研究所

当社化合物（イオンチャネル標的）の眼疾患への適応を探る (2022年開始)

保有技術 眼科領域の創薬ノウハウ（緑内障治療薬（製品名：グラナテック®））

NEW



leadXpro AG

イオンチャネルの構造生物学的解析 (2023年開始)

保有技術 クライオ電子顕微鏡などを用いた膜タンパクの構造解析技術



タンパク質の3次元構造を原子レベルで観察できれば、活性向上や選択性改善を狙った論理的な化合物デザインにきわめて有用

要素技術の例

1

X線結晶構造解析

2

クライオ電子顕微鏡

3

計算科学・機械学習

4

タンパク質科学

技術革新により、従来は適用が困難であった**膜タンパク質にも適用可能**

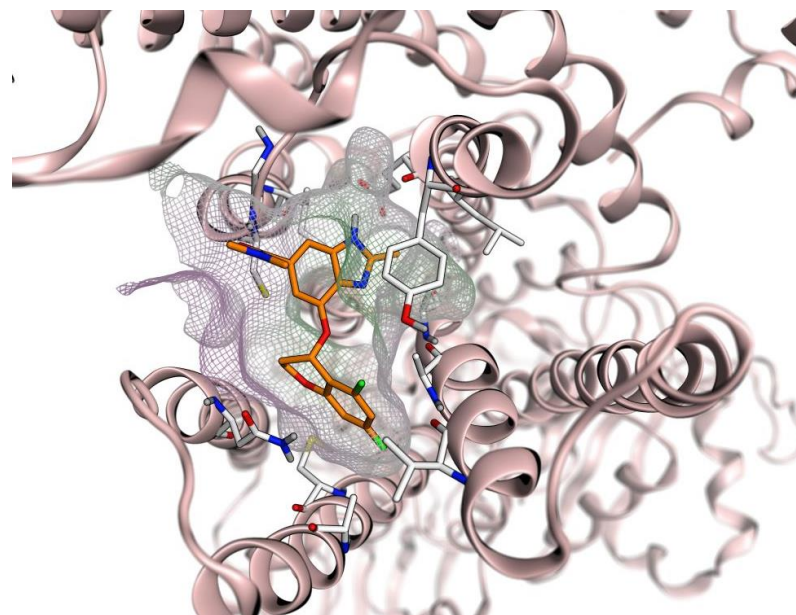


図. 胃プロトンポンプに対するテゴプラザンの結合構造
(名古屋大学細胞生理学センター阿部一啓准教授と当社の共同研究)

文献: *J. Med. Chem.* 65, 7843–7853 (2022) (doi:10.1021/acs.jmedchem.2c00338)

当社の低分子創薬ノウハウとの融合を目指した取り組みを開始



イオンチャネル創薬の加速化/深化を目指し特定のイオンチャネルを 標的とした取り組みを開始

- クライオ電子顕微鏡 (Cryo-EM) などの構造生物学的技術を活用して、タンパク質と化合物の結合構造を高分解能で観察するための技術開発を行う

leadXpro社について

leadXpro

本社	スイス・ビリゲン (Villigen)
代表者	Michael Hennig
設立年	2015年
事業内容	研究受託 (膜タンパク質の構造解析)
ウェブサイト	https://leadxpro.com/

- スイス連邦工科大学 (ETH) 発のスタートアップ企業
- タンパク質科学、X線結晶構造解析、クライオ電子顕微鏡、生物物理学的特性評価などに強みを持ち、様々な膜タンパク質の構造決定に成功

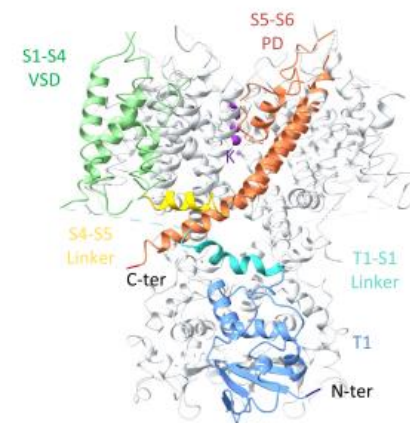


図. f1WT-Kv3.1a (アポ体) の構造

文献: *PNAS Nexus*, 1, pgac083, (2022) (doi.org/10.1093/pnasnexus/pgac083)



研究の主な取り組みとポジショニング

決算説明会

2023年12月期 第1四半期

主な項目		基盤技術	プログラム（標的分子）	スタートアップ等との連携※1
研究	次世代の成長 新規モダリティの試験的導入	細胞内抗体 mRNA標的的低分子 非開示	イオンチャネル(1) 標的 非開示(1) 標的 非開示(2)	STAND THERAPEUTICS 14Si
	ポートフォリオの拡大 神経疾患等への展開	Cryo-EM 疾患 iPS細胞	イオンチャネル(2) イオンチャネル(3) イオンチャネル(4) 標的 非開示(3)	DWTI
	化合物創出の効率化 各種AI創薬技術の導入 構造生物学への取り組み	HTSシステム update 自動合成システム バイオインフォマティクス	標的 非開示(4) イオンチャネル(5) イオンチャネル(6)	SOCIUM lead:pro
	設備の強化 ラボの設備強化・拡大	in vitro 設備の update in vivo 設備の update		iPark Shonan

※1：公表済みのものに限ります

(2023年5月1日現在)

社内外での新規の取り組みで非連続の成長を目指す



最先端の科学と技術を保有する企業との協議機会を獲得 創薬バリューチェーンとポートフォリオの充実化を図る

新規モダリティ、標的分子探索、AIの創薬応用等

湘南ヘルスイノベーションパーク
(湘南アイパーク)

神奈川県藤沢市。約150社、2,000人以上の
企業が集積するサイエンスパーク

湘南ヘルスイノベーションパーク
Shonan Health Innovation Park

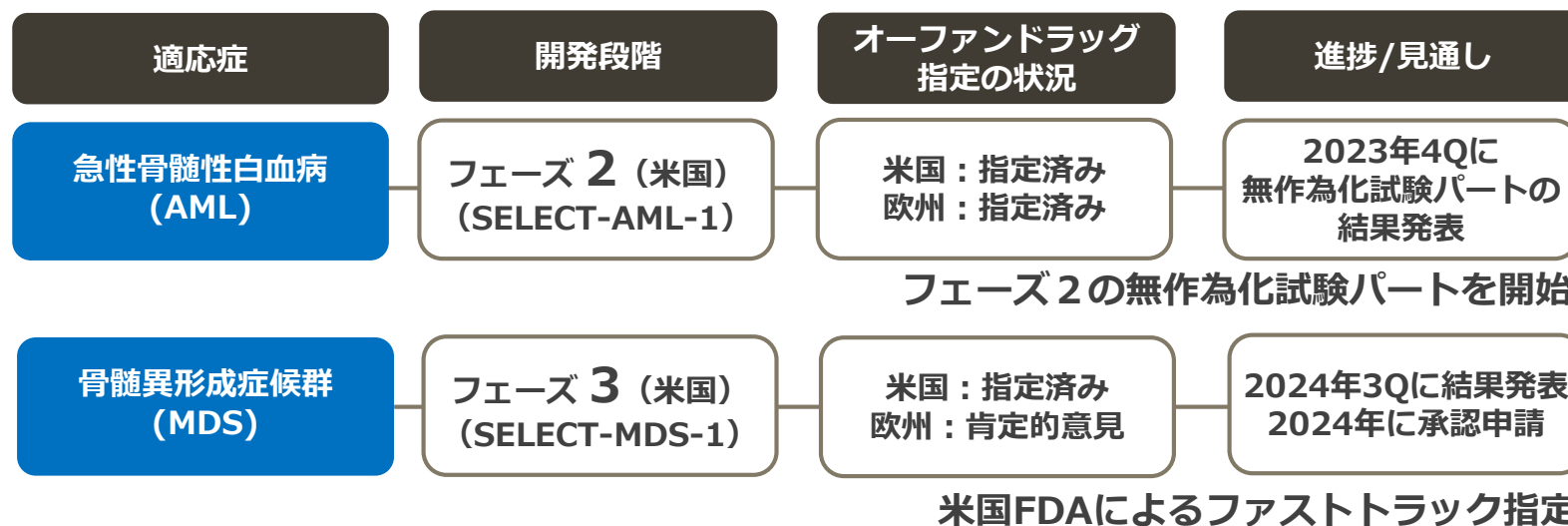
iPark
Shonan



タミバロテン (TM-411/SY-1425)

- レチノイン酸受容体のαサブタイプ (RARα) 選択的作動薬。強い分化誘導活性
- RARA遺伝子の過剰発現があり既存の治療法に反応しにくい患者で、他の抗腫瘍剤との併用による相乗効果が期待できる

Syros Pharmaceuticals Inc. (シロス社) における開発状況



試験計画の一部変更 (全生存期間を副次的評価項目に追加、予定症例数の増加 (190→550))

その他の取り組み状況

- すい臓がん：切除不能膵がんに対する医師主導治験 (フェーズ 1/2) が進行中※
- 後継品プロジェクト：タミバロテン後継品の探索に関する検討を開始

※名古屋大学消化器内科学および東京大学消化器内科学で実施

私たちは創薬を通じて健康と幸せに貢献し、
人々の心に陽をもたらします



RaQualia
innovators for life

ラクオリア創薬株式会社